

(3) 2009年(平成21年)11月24日(火曜日)

10年の歩み振り返る

大崎重症心身障害児者を守る会

会報の記念号発行

大崎重症心身障害児(者)を守る会(大友祥子会長)はこのほど、

会結成10周年を記念し、会報「ほほえみ」記念号を刊行し、関係者に配布した。

同会は1999年9月、県立古川養護学校(現古川支援学校)に通う児童、生徒の母親たち11人で、全国重症心身障害児(者)を守る会宮城県支部大崎分会として発足したのが最初。情報交換や勉強会を定期的に重ね、親

同士が横のつながりをつくり、支えあってきた。

記念号では、会員それぞれが、これまでの歩みを振り返って感想を寄せたほか、写真で

活動を記録。福祉団体や支援する企業関係者らも祝福の言葉を寄せている。

大友会長は「会のおかげで親が孤立せず、つながりができたのが大きかった」と振り返る。同会は、大崎市民病

記念号を手にする大友会長



院本院の建設に併せ、仙台に集中している重症心身障害児(者)の専門診療科、ショートステイ施設などの整備を求めており、10月には大崎市に要望書を提出した。

「障害ある子供たちは、仙台まで往復するのは体力的にきつい。地域で暮らすため、専

門の医療環境が必要なることを今後も訴えていきたい」と、大友会長は語っている。

記念号はA4判、17ページ。問い合わせは大友会長へ。電話0229(22)17777。